

移動式搾乳システムの開発による放牧酪農技術の実証

〔分野〕畜産の生産性向上、省力化等を可能とする生産技術体系

〔分類〕個別型研究

〔代表機関〕（公財）農村更正協会 八ヶ岳中央農業実践大学校

〔参画研究機関〕山梨県酪農試験場

〔研究・実証地区〕長野県諏訪郡原村

1 研究の背景・課題

本州以南における舎飼による加工畜産型酪農が崩壊の危機に直面している中で、草を食べる反芻動物である乳用牛の持つ潜在能力が発揮できる放牧酪農への転換技術を開発し、ゆとりのある健全な酪農経営の発展を図るとともに、生草の摂取等を通じた生乳の機能性の向上等により、消費者ニーズに応えた酪農産物の差別化とブランド化を図る等、本州以南酪農等の救世技術の開発を図る必要が急務である。

このため、中山間地域を始めとして増加している耕作放棄等の未利用地・低利用地や酪農利用が可能な農地・草地を活用して、生乳生産を行う上で必要となる省力かつ低投資放牧技術の開発及び検証と実証を行う。

この場合、中山間地域における農地及び草地・耕作放棄地は急傾斜で狭小な区画が多く、また、中山間地域に開設された公共牧場などでは管理労力不足等もあって、従来型の家畜及び草地の管理法では対応できない場面もみられる。このような条件下で、放牧酪農における生乳生産の省力化及び生産性の向上に繋がる管理法の実証が必要となっている。

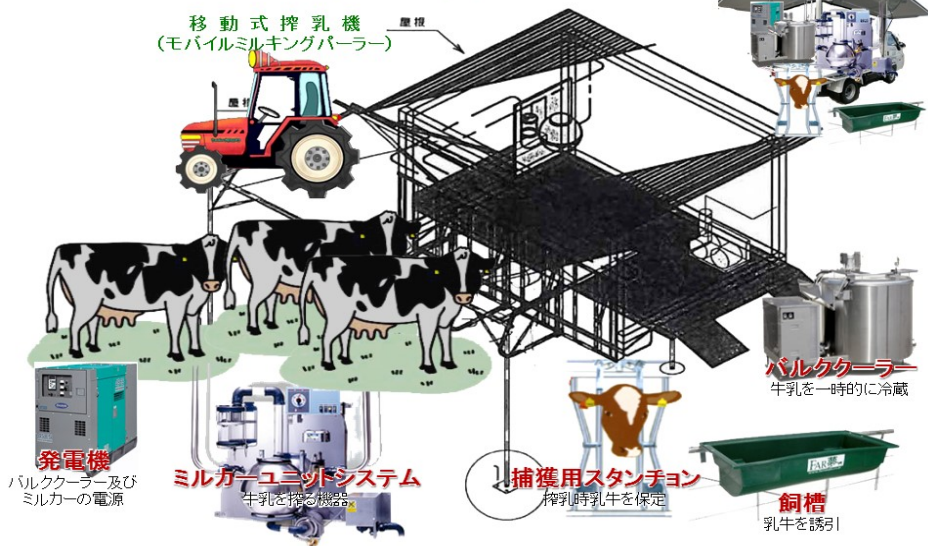
2 研究の目標

放牧地内搾乳による放牧酪農が本州以南で可能なことを実証し、舎飼比で、コスト30%削減、労働生産性30%向上を目標とする。併せて、舎飼い生乳との成分比較を行い、機能性を評価する。

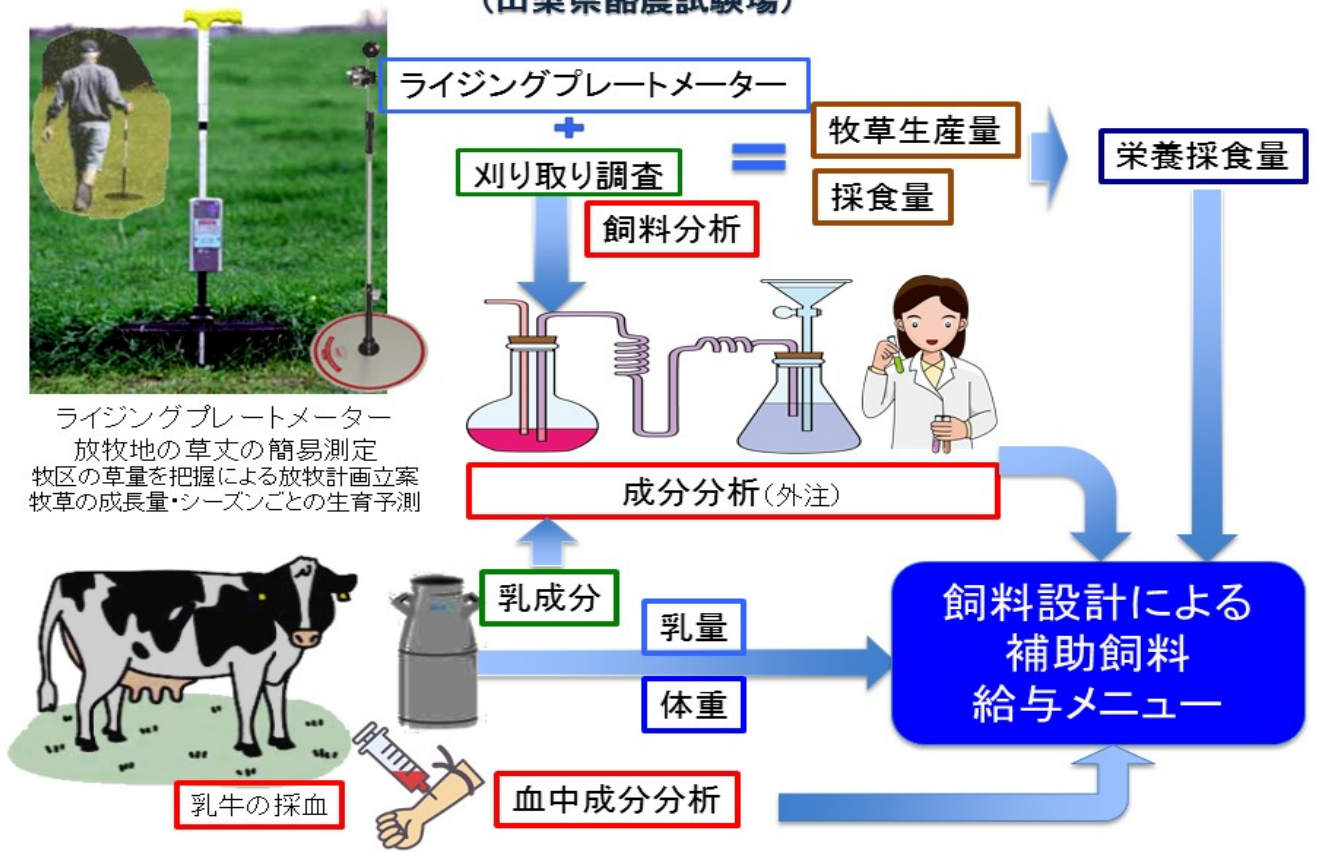
3 研究計画の概要

1. 府県型放牧地内搾乳技術の確立

八ヶ岳中央農業実践大学校



2. 放牧草採食量調査と補助飼料給与モデルの実証 (山梨県酪農試験場)



3. 搾乳牛放牧牛乳及び乳製品の評価

八ヶ岳中央農業実践大学校
山梨県酪農試験場

